

●発行所 前進社関西支社
 大阪市淀川区東三国6-23-16
 振替00970-9-151298
 ●発行人 佐藤 一 ●第1・3火曜日発行
 ●4ページ 200円(本体191円)
 ●定期購読 購読料(送料別)
 1部 1ヶ月400円(密封160円) 半年2,400円(密封960円)
 1年4,800円(密封1,920円)

革共同通信

反帝国主義・反スターリン主義
 万国の労働者と被抑圧民族は
 団結せよ!

革命的共産主義者同盟関西地方委員会

安田一派が牛耳る革共同中央は完全に变质した。反スターリン主義・革命的共産主義とおおよそ無縁な存在になりさがった。安田派中央が発行する『前進』はもはや労働者の革命的新聞ではまったくない。

日本と世界の共産主義運動におけるスターリン主義的な歪みを必死にのりこえようとしてきた結党以来の革共同の苦闘と前進。黒田・カクマルとの第三次分裂と70年安保・沖繩決戦、二重対峙・対カクマル戦とおしてつみとってきた革共同の地平。その一切合切を、安田派中央(安田・清水体制)はなげすてようとしている。

われわれは安田派中央による革共同の篡奪(さんだつ)を絶対に許さない。革共同を全面的に奪還し、反スターリン主義・革命的共産主義運動の継承と発展を断固としてかちとる。われわれは、その戦闘宣言として『革共同通信』を発刊する。

安田派中央の下で苦吟する同志たちに心より訴える。「たしかに中央はおかしい」「やり方は異常だ」。多くの同志たちがこう認めている。にもかかわらず、真剣な批判を提起する同志が除名・処分・粛清・追放されるのを目の当たりにしてなお沈黙を守るのか。「7月テーゼ」が党内で深刻な差別事件を引きお

こし、しかもそれを差別事件のデッチ上げ」など居直る中央をなお看過するのか。いまこそロシア共産党のスターリン主義的变质の過程を想起すべきだ。沈黙は加担であり、権威主義への追従は共産主義者、革命家としての死である。

直面する痛苦な現実。直面向からむきあい、革命的批判精神をよみがえらせ、みずから頭で主体的に考え、自立した共産主義者として立ちあがるのではないか。

革命的時代認識と共産主義者の任務

全世界の労働者と被抑圧民族の力で、反帝国主義・反スターリン主義世界革命をたたかいつとってきた。帝国主義の戦争への突入を、帝国主義打倒のプロレタリア暴力革命に転化するべきだ。被抑圧民族人民のたたかいに断固として連帯し、帝国主義足下において、プロレタリアの革命的な内乱を組織するべきだ。

時代は、第二次大戦後の戦後革命情勢や70年代ベトナム革命の国際的波及情勢をはるかにこえる21世紀の世界戦争と世界革命の時代に入っている。このことを断固として確認しよう。

帝国主義の世界体制はすでに戦後発展が終焉した70年代に基本的な破綻していた。それは資本主義の終わりの始まりであった。これにたいし、80年代以降のアメリカ帝国主義はスターリン主義の破産を餌食にしながら、①はてしない軍拡と絶え間ない戦争発動をくり返し、戦後の世界秩序の破壊的な再編をおし進めた。②多国籍企業の展開をおし、新植民地主義体制を、諸国民にたいして抑圧・圧殺と搾取・収奪を極限的に強制した。③規制緩和・民営化をもつて戦後の階級協調政策を転覆し、労働者階級の団結を破壊して

異常性は、ひと握りの資本家階級のもとに世界の富が極限的に集中する一方で、大多数の労働者階級・被抑圧民族人民が労働地獄と絶対的貧困にたたきこまれていることである。そしてその破局性は、くりのべにくりのべできた全矛盾が未曾有の世界大恐慌として爆発しようとしていることである。

人間自身の力である社会的生産力が、帝国主義的生産力として徹底的に疎外されたかたちであらわれ、極限的に巨大化し、それがいまや破壊力となって人間自身に襲いかかって

企業、民間と官公、組織と未組織、正規と非正規——この労働者の間の分断にある。さらにここに女性差別、部落差別、民族差別、「障害者」差別がたらぬかかっている。ここに団結の破壊と階級性解体の攻撃がある。

74、75年恐慌以降、帝国主義諸国は、労働者の非正規雇用化を軸に賃下げを推進し、その危機ののりきりをはかってきた。それは労働者の大半を非正規職にたたき込むと同時に、労働者を雇用形態によってバラバラに分断するすさまじい団結破壊をおしすすめる

面期的な地平をきりひらいた。そうして規制緩和・民営化の大攻撃をうち破る、新潮流と呼ばれる階級の労働運動を登場させてきた。ところが日本の労働運動においては、連合が90年代をとおして、「組合員の雇用確保」と称して非正規雇用化を積極的に受け入れ、帝国主義による分断と団結破壊に労働組合が加担するといふ反動的役割をはたしてきた。

この連合指導部を打倒する労働運動の戦闘的階級の再生をもちとることが、日本の労働者階級・人民の焦眉の課題である。

第一に、われわれが、労働者階級の内部に充滿する深い怒りをつかみとり、それと結合するためにいかにたたかってきたのかということがある。われわれは長い間、非正規・未組織・下請の労働者のたたかいを戦略的な課題とすることを欠落させてきた。このことを率直に認めなければならぬ。

ここに戦略的に手をかけたとき、労働者階級の階級性がよびさまされ、階級の団結がとりもどされ、労働者階級内部に充滿する深い怒りがものすこい勢いで爆発してくる。そして、そのたたかいと結びつくとき、国鉄・郵政・教労・自治体・医療などの産別はもちろん民間基幹産業においてもついに労働者階級の総反乱が切り開かれるのだ。

われわれはいまこそ非正規雇用化にたいするたたかいを展開してきた内外の先進的な労働組合から学ぶことからはじめなければならぬ。そのことを抜きにした安田派中央による「体制内労働運動」の決別——の一面的な強調は、実践的には階級的労働運動からの召還がいかになものでもない。

第二に、われわれは搾取とたたかう労働者階級の総反乱を帝国主義権力とのたたかいへと結びつけ、政治決戦の爆発へ、革命情勢そのものへと発展させていくためにいかにたたかってきたのかということがある。

当然のことながら、経済闘争で労働運動を戦闘化させて、しかるのちに政治闘争も、という路線では労働者階級を裏切るものにしてはならない。「労働運動で革命を」というだけで労働組合から政治闘争を放逐してしまつてもできない。

レーニン主義は、職場・生産点でのたたかいを基礎にして政治闘争としての政治闘争をきりひらいていくものだ。帝国主義の危機に際して革命を訴えていくのは当然だ。しかし政治闘争をぬきにした政治権力奪取など虚言でしかない。11月労働者集会の国際連帯のたたかいをG8サミット決戦へと発展させてこそ、世界革命の展望を語るべきだ。改憲決戦としての改憲決戦に結びつけていってこそ、日本革命を語るべきだ。

沖繩人民の決起と連帯して、安保粉砕・基地撤去をたたかつてこそ、日本帝国主義打倒を語るべきだ。「農地死守・実力闘争」の原点に引きもどされ、た三里塚決戦を労働連帯でたたかつてこそ、プロレタリア暴力革命の復権を語るべきだ。

ところが安田派中央はこうしたレーニン主義の実践とはまったく逆コースを進んできた。安田派中央は03年3月20日に米帝がイラク侵略戦争に突入したまさにそのときに、「新指導路線」と称して政治闘争からの全面的な召還を開始した。これが今日の安田派中央の变质の直接の出発点である。

08年こそ、安田派中央による变质を粉砕し、階級的労働運動の再生とそれを基礎とした政治闘争・実力闘争の復権を大胆にかちとろう。

創刊の アピール 革共同を奪還する!

「5月テーゼ」以降の総括

ものでは革共同はどうだったのか。われわれは、91年の「5月テーゼ」において、90年代から21世紀への大情勢をにらんで、階級的労働運動を基礎に、労働者細胞の建設と労働運動と革命的大衆行動の組織化に全力をあげてきたことを決定した。しかしそれ以来の17年間にわたる実践にもかかわらず、06年3・14決起を不可避とした党中央の腐敗と变质がなせ進行してきたのかについて、真剣な総括をおこなわなければならない。

第二に、われわれは

日本階級闘争が直面する課題

帝国主義による労働者支配の要は、本工と臨時工、大企業と下請

震災13周年 1・13被災地集会

反失業の闘いが前進

1月13日、阪神淡路大震災13周年・反失業総行動の集会在神戸市新長田勤労市民センターで開催され、130名の仲間が結集した。

被災地神戸では、生きる権利・働く権利を求めて、絶対あきらめずに13年間粘り強く闘ってきた。いま、被災地共闘の団結という宝を手に入れている。

「対テロ」戦争や「新自由主義」攻撃のなかで、全国・全世界で生存権が危機に瀕している。この団結を、さらに一歩前に進めること。全国・全世界で立ち上がる労働者・民衆の闘いと結びついて、共鳴し合うこと。その

も力になってもらって



島本さんの講演と寸劇でもりあがった1・13集会

先頭に被災地が立つた。その真中を大地震が直撃し、雇用破壊・リストラと住宅ローンが重なっていることが浮き彫りになった。パソコンでローンのシミュレーションに「派遣社員」と入力したら、そこから先には進めない。

要求者組合・蒲牟田事務次長が「各団体が自分の足元のところで闘い、しごと開発が打ち切られるときは県庁に突入し、番町の仲間が差別を受けたときは市役所に座りこんで抗議し、神戸空港に反対して空港ロビーに突っ込んで抗議した。生き残るため働いたための闘いを13年間闘ってきた」と昨年の闘いを総括し、「新たな闘いを開始する。当面、番町の同和住宅追い出し阻止を最重要の闘いとしてとりくもう」と方針を力強く提起した。

最後に、「被災者生活再建支援基本法で、住宅支援を絶対しない」といつていた国の壁を突き破ったのは神戸、被災地の人たちの運動。みなさんの闘いに期待し、私も頑張る。私たちの仕事は、生活基本法に、生存権の魂を吹き込んでいくこと」と締めくくった。

寸劇「戦争伝説」は、各団体の人たちが協力しあって反戦劇を準備した。若者がよくがんばり、笑いと拍手が渦まいた。

「ルポ解雇」「住宅喪失」などの著者の島本慈子(やすこ)さんの講演は、被災地の闘いや思いと完全に重なる、説得力あふれる内容だった。

大震災のとき、日本列島は150兆円の住宅ローンの上に乗って

参加団体の発言。関西合同労組からは港湾労働者の争議の闘いを、しごと開発就労者組合はミニデイサービスを紹介を、被災地労働者企業組合の仲間

は、リースシューズ製造販売の闘いの苦闘について訴えた。神戸空港の中止を求める市民の会からは、神戸空港の建設資金の返済問題と2・11集会について、百万人署名運動からは、対テロ給油新法の国会採択を弾劾し、2・10改憲阻止の集会・デモを訴えた。

部落解放同盟全国連・家賃値上げ反対番町住民の会の仲間は、住宅闘争の追い出し攻撃の切迫とこれを阻止する闘いを報告し、支援を訴えた。さらに、「住宅闘争は物取り主義」なる差別発言をめぐる広島差別糾弾闘争について提起があった。神戸市は、行政交渉で「あなた方は物取りのために交渉、もうそのような時代ではない」と差別的対応に終始した。「部落解放運動は物取り主義」というキャンペーンと闘えなかったら、部落解放運動は一步も進まない。差別と闘えなくなるといった誤った認識が、共闘の仲間から出てきたことは非常に残念。差別と闘うというのを皆さんと一緒に考えていきたい。差別のない本場に平等な、戦争のない社会のために闘おうと訴えた。

最後に、石田関西合同労組委員長が、団結ガンバローで締めくくった。

集会に参加できなかった要求者組合の大河西さんは「組合には力がある。しかし、若い世代にも参加してもらって、もっと強い団結をつくっていくことが必要だ」と、病床から訴えている。

生きる権利・働く権利・住む権利は、生存権として一体であり、戦争、雇用破壊、ワーキングプア、戦後最高の資本のほろ儲けのなかで、生存権が危機に瀕している。闘わねば殺されてしまう時代が始まった。13年前の被災地の状況が全社会に拡大しているのだ。

被災地の闘いは、中心に労働組合運動が座り、生存権をかけた新たな闘いを開始していく。集会はそのテコの役割となる決意をあらためて固めた。

劇あり踊りあり

ミニデイサービスの通所者・スタッフのみなさんが、河内男節で炭坑節踊りを楽しく踊ってくれた。フリートークでは、在日二世の方から、従軍慰安婦謝罪・補償の訴えが、日々雇用の男性から、神戸のホームレスが2800人にのぼる実態が報告された。星野さん救援運動の女性は、労働者を軽視する世の中に怒りをぶつけた。最後に、石田関西合同労組委員長が、団結ガンバローで締めくくった。

集会に参加できなかった要求者組合の大河西さんは「組合には力がある。しかし、若い世代にも参加してもらって、もっと強い団結をつくっていくことが必要だ」と、病床から訴えている。

生きる権利・働く権利・住む権利は、生存権として一体であり、戦争、雇用破壊、ワーキングプア、戦後最高の資本のほろ儲けのなかで、生存権が危機に瀕している。闘わねば殺されてしまう時代が始まった。13年前の被災地の状況が全社会に拡大しているのだ。

被災地の闘いは、中心に労働組合運動が座り、生存権をかけた新たな闘いを開始していく。集会はそのテコの役割となる決意をあらためて固めた。

被災地の闘いは、中心に労働組合運動が座り、生存権をかけた新たな闘いを開始していく。集会はそのテコの役割となる決意をあらためて固めた。

現場からの報告

08年の火ぶたきる正月闘争ー和歌山・梅田・加古川で闘われる

毎年恒例となっている関西の元旦闘争だ。火ぶたきるにふさわしく、関西の労働運動の課題、労働委員会の勝利をくつがえす反動司法の逆転攻撃に反撃してこじ開けた昨年の9・26大阪高裁南労会判決の面々す位置が明確にされ、08年の闘争の決意が提起される。争議当該の南労会支部からは「南労会の態度は労働法制の根本を否定するもの」と書かせた判決戦取への「大衆闘争の積み上げ」の経過と総括が提起され、今年の「勝利の年へ」の決意がかたられた。

そして和歌山の倒産争議の泊り込み現場から駆けつけた全日建連帯労組関西地区生コン

小雪舞う橋本市紀ノ川河川敷に組合旗がひるがえり、100名をこえる仲間が南労会松浦理事長宅包囲糾弾・元旦行動に結集する。20本近くの赤旗・ノボリがちぎれるようには

南労会理事長宅を100名で包囲

2日には兵庫県加古川郵便局前、午前8時凍てつく寒さの中、「闘」が染め抜かれた関西トランスポート分会旗(勝利した全通4・28連絡会から贈呈された)がひるがえり。出勤する郵政労働者と交歓しながら、関西合同労組の正月闘争が共闘など30名でたたかわれた。

昨年9・28勝利判決で職場復帰した組合員と共闘は、責任逃れの郵政と旧経営陣の徹底追及の闘いに立った。敵を驚愕させた控訴審(共同不法行為に3千万円の生涯賃金賠償請求!)の意気込みをかけての現場闘争だ。辻本分会長と分会員は「郵政を徹底追及、非正規労働者の権利を」と今年の決意を

表明し、当局に抗議文をたたきつけた。多くの共闘からの発言を受け、局を一周するデモが行われた。全通加古川分会の労働者もデツキから呼応する。その後神戸市西区の旧社長宅に登場。社長が慌てて家に逃げ込む。そこに抗議文と怒りのシニプレヒコールがたたきつけられ、自宅周辺ビラ撒きがおこなわれた。

関トラ分会の「闘」の旗ひるがえり。関トラ闘争は、請負とされ労働法のない世界に排除されている偽装雇用・偽装請負労働者の希望と解放を闘い、労働運動の再生を切り開く闘いだ。1月2日はその力強い前進を告げた。

全日建連帯労組関西地区生コン支部は高槻・和歌山など関西全域で元旦闘争を闘い、同日梅田ヨドバシカメラ前では関西合同労組のコムサ解雇撤回の情宣活動が青年を中心に30名で元気に行われた。

正月闘争から、08春闘・イラク反戦・三里塚・戦争と非正規化のためのG8サミット粉砕へ! 労働運動の荒々しさを復権させよう。闘いは始まった。(兵庫労働通信員K)



和歌山・紀ノ川河川敷に組合旗がひるがえり(1・1)

大衆的実力闘争と三里塚結集運動の復権で、農地強奪・北延伸阻止！3・30三里塚現地へ

市東さんの農地を守ろう！

昨年一年の攻防を通して本2008年三里塚闘争は、42年の闘いの最重要局面を迎えた。三里塚闘争の原点である農地死守・実力闘争と二期阻止・空港の成否を決する情勢を迎えたのだ。

ただちにわれわれは、この攻防にかちぬく強力な闘争陣形をつくりだしていかなければならない。敷地内農民・反対同盟を先頭に、北延伸を阻止する現地

闘いを全国の三里塚勢力と労農学連帯の力で支えぬこう。現地調査・援農活動を不断に組織し、全国・関西各地での集会や三里塚写



葉山岳夫反対同盟顧問弁護士を迎えての三里塚講座(11月22日)

月には、農地強奪の強制執行が実際に始まる

（これらの点についての詳細は、三里塚反対同盟ブログ <http://www.sanrizuka-domei.jp/blog/> 及び関実ブログ <http://kanjisu-sanrizuka.cocolog-nifty.com/> を参照）

暫定滑走路北延伸は「2010年3月完成」とされているが、その

「戦後憲法の申し子」ともいべき農地法の破壊・解体とのたたかいは、改憲阻止闘争そのものだ。さら



新鮮な三里塚の野菜が関西に。恒例の団結野菜市(12月27日)

農連帯・労農同盟の真価が問われていることを肝に銘じ、血盟を誓約したものと闘いぬこう。

「市東さんの農地を守ろう！」の大衆的運動は、千葉県下を中心に労働者、農民、市民

第二点は、2002年の暫定滑走路供用開始以降、用地内の天神

第三点は、成田空港の軍事空港化が一段と進んでいることだ。

PAC3と成田空港は一体だ

PAC3(パトリオットト迎撃ミサイル)が強行配備された。「朝鮮有事」の際には巨



08年の闘いを力強く宣言した反対同盟旗開き(1月13日)

闘争案内 1・27 関西新空港粉砕闘争へ

たたかう仲間のみならず、日頃のご奮闘に敬意を表します。2008年を勝利の年にするために共に闘いましょう。

昨年、ついに労働者、農民の怒りが安倍政権を打倒しました。そして9月29日、沖縄県民大会が12万人の労働者人民が決起する歴史的な成功を勝ち取りました。また11月4日には、東京日比谷野音に日本、韓国、アメリカの労働者人民が5700名結集し、集

関西新空港闘争では、7月22日全国集会を闘い、8月2日二期開港に抗議する闘いに決起しました。今年、関西新空港闘争から対テロ新特措法阻止闘争、憲法改悪阻止闘争を爆発させましょう。

世界金融恐慌の現実化とイラク侵略戦争とイランへの拡大情勢は、各国の争闘戦を激化させ、福田政権を危機に陥れています。小泉政権以来激化させてきた戦争・改憲、民営化・労組破壊の攻撃を強めようとしています。それは同時に労働者人民がたち上がる情勢をつくりだしています。「ワーキングプア」「ネットカフェ難民」が急増し、青年労働者が「生きさせろ！」と立ち上がり始めています。

関西新空港闘争も決戦を迎えています。8月2日関西二期開港を強行しましたが、便数は増えていません。他方、6月26日「二期計画案」を発表し貨物に重点を移す「国際貨物ハブ空港」構想を発表しました。これは「アジアゲートウェイ」戦略の一環であり、関空をアジア侵略の拠点空港に位置づける戦略です。すでに日米両政府は朝鮮侵略戦争を行うための「作戦計画5055」に合意し、春から現地調査を始め、開港を強行しました。その攻撃に対し住民はねばり強く闘っています。2月11日には開港2周年闘争をやりま

を背景にした沖縄・三里塚などへの攻撃と一体のもので、42年間不屈に闘い抜く三里塚反対同盟への北延伸攻撃、市東孝雄さんの耕作地を「農地法」で取り上げようとする暴虐・不法な攻撃を絶対

神戸空港に反対する闘いもその一つです。神戸港と共に軍事拠点にするために建設し、開港を強行しました。その攻撃に対し住民はねばり強く闘っています。2月11日には開港2周年闘争をやりま

また、年末に政府は来年度予算案で関空連絡橋を国有化する方針を打ち出したが、これも私たちが以前から指摘していたように軍事空港化の一環です。さらに9月27日から開空に着陸するルートまで「陸上ルート」を強行しました。98年離陸ルートの陸上ルート強行以上の暴挙です。破綻した関空二期の便数を増やすために、地元住民に犠牲を強要するものです。こんなことは絶対に許せません。これらは米軍再編

関西の軍事使用反対！国際貨物ハブ空港化反対！対テロ新特措法採択弾劾！1・27 関西新空港反対集会
とき：1月27日(日)午後1時半集合、2時開会
ところ：りんくう公園太鼓橋(例年と同じ場所です。泉佐野市「りんくう」駅下車2分)
主催：大阪湾岸住民4団体(泉州・淡路・明石・東灘) 関西反戦共同行動委員会
集会の後、泉佐野駅までデモをします。(主催者の案内を一部縮めています)



とめよう戦争への道！百万人署名運動のよかけで、関西からも上京し1月10日に国会闘争が60名で闘われた。また11日の再議決を弾劾し、12日に百万人署名の仲間により大阪・神戸で緊急街宣が行われた。

沖繩、岩国の闘いに続く 福田をたおせ！改憲とめよう！ 2・10集会の成功をかちとろう

沖繩・岩国の闘いに続く

08年の階級情勢は、

対テロ給油新法の衆院再議決の暴挙と国際帝国主義の金融不安の絶望的危機にはじまり、乱気流のなかでサミットと改憲をめぐる政治決戦と春闘の幕があけようとしている。われわれは、07年後半に切り開かれた沖繩と岩国での地域総ぐるみの決起につづいて、関西の地でも壮大な労働者人民の総反撃をつくりだし、戦争と労働運動つづき、生活破壊をおし進める福田政権を労働者人民の力でうち倒していかなければならない。その第一弾が百万

生活での怒りと反戦が一つに

福田打倒が人民の意志

沖繩の歴史教科書問題と辺野古新基地建設、岩国の米軍基地拡張攻撃で問われている問題は、過去の侵略戦争と次の侵略戦争の準備が一つながりになっているという事だ。すべては憲法問題に天皇制と安保の問題につながっているのだ。労働者階級人民の怒りは深く広く激しい。その根底に生活破壊への怒りと将来への不安がある。大事なことは、それが「二度と戦争を

自公政権の再議決と対決し、対テロ給油新法阻止の国会闘争闘われる

2・10集会賛同カンパのお願い
賛同カンパ11口500円です。集会を成功させるために皆様のご支援をお願いします。
■カンパ送付先
郵便振替口座番号 009302119042
※振替用紙の通信欄に「2・10集会賛同カンパ」と明記してお送り下さい。

2・10集会要項

開場 13時 13時30分開会
会場 大阪市立住まい情報センター3階ホール
(地下鉄堺筋線・阪急線「天神橋6丁目」駅下車すぐ)

集会内容
●講演
知花昌一さん(沖繩読谷村会議員)
小田原紀雄さん(百万人署名運動事務局次長)

●報告
入間基地PAC3阻止闘争の報告
実行委参加・賛同団体からのアピールなど

●集会後
梅田までのデモ行進
主催 2・10集会実行委員会

2・10集会賛同カンパのお願い
賛同カンパ11口500円です。集会を成功させるために皆様のご支援をお願いします。

郵便振替口座番号 009302119042
※振替用紙の通信欄に「2・10集会賛同カンパ」と明記してお送り下さい。

いか。その施政方針演説も、対テロ給油新法で始まり、改憲準備に終わっているのだ。

知花昌一氏、小田原紀雄氏来る

沖繩戦隊自決の語り部として闘い、一坪反戦地主として、「日丸」焼き捨てに決起した知花昌一氏は、2月10日投票の岩国市長選挙の応援のあと、沖

安田派中央の本質

は、革命と内乱にたいする恐怖と反動である。帝国主義と権力にたいする綱領的屈服が問題になる情勢だからこそ発生した投降と転向である。

清水式革命論の破産

安田派中央とは清水式革命論の破産の所産である。清水議長そのひとは、権威主義的な自己保身と他者不信から労働者階級との生きた交通を拒否し、そのために生きた階級関係に立つて敵の攻撃と味方のたたかひをつかむことができない、いわば机上の人だ。

「5月テーゼ」からの脱却・背反

安田派中央は「5月テーゼ」が突きつける飛躍の拒否、権力・資本への屈服と敗北主義から発生した。

3・14決起への恐怖と反動

安田派中央の変質の根底には、06年3・14決起にたいする恐怖と反動がある。

「革共同通信」の発刊は、日本階級闘争と反スターリン主義・革命的共産主義運動の危機を、大胆にぶち破っていくであろう。

「革共同通信」の発刊は、日本階級闘争と反スターリン主義・革命的共産主義運動の危機を、大胆にぶち破っていくであろう。すべてのみなさん、「革共同通信」とともに08年サミット・改憲決戦、三里塚・沖繩闘争、春闘の階級的爆発をきりひらき、武装し戦う革共同を奪還しよう！

「5月テーゼ」は、革共同の反帝国主義・反スターリン主義世界革命戦略と戦略的総路線の本格的全面的な実践を要求した。その実践過程は、われわれ一人ひとりに共産主義者であるかどうかをあらためて試すものであった。ところが安田同志はここで飛躍を拒否していったのである。

問題は、革共同中央が生み出したものだ。

中央が細胞にたいして上意下達的な「一致」を強制する清水式革命論の組織観。安田一派による帝国主義権力への綱領的屈服。その現実を中央全体が共有し、体質化していた。そうした現実の中でこそ与田の不正・腐敗と私党化、権力への投降もありえたのである。

3・14決起は、このような革共同中央の変質と腐敗を激しく弾劾し、革命的に突き破ろうとしたものだった。細胞と中央の同格性・同質性を回復し、反スターリン主義・革命的共産主義の原点に立ち返り、革共同の再生をめざす決起であった。

だから安田派中央は3・14決起にたいして恐怖しか感ずることができない。そしてそれをなきものにするために処分を乱発する以外にないのだ。

われわれは、3・14決起を継続し、安田派中央から革共同を全面的に奪還する。

「革共同通信」の発刊は、日本階級闘争と反スターリン主義・革命的共産主義運動の危機を、大胆にぶち破っていくであろう。

すべてのみなさん、「革共同通信」とともに08年サミット・改憲決戦、三里塚・沖繩闘争、春闘の階級的爆発をきりひらき、武装し戦う革共同を奪還しよう！

増刷出来 革共同関西党員総会 報告・決定集

革共同中央の組織破壊・路線的変質に抗して、
関西地方委員会が党員総会を開催

「階級的労働運動路線」の名で、政治闘争・改憲決戦と、職場での労働組合運動を否定し、「07年7月テーゼ」で差別・排外主義との闘いを放棄したことに対する、全面的批判の議案と、20人の発言、付属資料を収録

党中央変質の核心問題を明らかにする！

巻頭アピール／総会コミュニケ
 第一号議案 「11・6政治局決定」を批判する
 第二号議案 党を分裂させる「関西WOB」を凍結せよ
 第三号議案 (1) 7月テーゼの撤回を求める 他
 付属資料
 7月テーゼ批判 関西入管闘争委員会
 自己批判と決意 椿 邦彦
 労働者党員の意見書 他

革命階級共産主義者同志
関西地方委員会

A5版 154頁 800円